

No.89

すくらむ

2018.3.1 発行



福井県特別支援教育センターは、県立病院関連四機関の4階にあります。

P1

巻頭言

丁寧に向き合い、
具体的な支援と温かい環境を

P2

専門性を高めるためのセンター主催の研修紹介
～特コ養成研、特コ専門研、授業リーダー研修、新特担研修～

P3

福井県の高等学校における
「通級による指導」について
県内の通級指導実践紹介

P4

実践研究発表会 報告
教育支援専門員だより

巻頭言 丁寧に向き合い、具体的な支援と温かい環境を

県教育庁高校教育課(特別支援教育) 参事 吉川 順子氏



福井県では、小中学校の特別支援学級、通級による指導や支援を必要としている子どもは年々増加し、一人ひとりのニーズに応じた教育環境の充実を図っています。各学校では、県が配付した「移行支援ガイドライン」等を活用し、校内支援体制の充実に取り組んでくださっています。

教員は、子どもと丁寧に向き合い、子どもの良さを誉め励まし、最大限に伸ばすことが大切で、それを学校全体で取り組んでいくことが重要です。そのために以下のことを、研修会等でいつもお話しています。

- ①校長は、校内支援委員会を設置し、定期的を開催する。
- ②具体的な支援のあり方は、保護者や支援員等も含めたチーム会で丁寧にじっくり話し合い、情報を共有する。
- ③必要に応じ、相談機関や医療機関等と連携する。
- ④支援の必要な子どもについては、「子育てファイルふくいっ子」の個別の指導(支援)計画を作成する。一度作成したら、修正追加し進級、進学した時に引継ぐ。個別の指導(支援)計画については、子どもがどのように育ってほしいか、どのような目標を立て、どのような支援をしていくか具体的に記入する。

また今年度は、福井市と永平寺町の小中学校を教育支援専門員が巡回し、相談にのっています。再来年度までには、すべての市町を巡回します。さらに来年度は、高校通級もスタートする予定です。

先生方には、特別支援教育の研修会などで、これまでもたくさんの研修を積んでいただいています。また、校内でケース会議を開きチームで取り組んできた沢山の事例は、その一つひとつが先生方にとって今後活かせる、大変貴重な研修にもなっています。

いずれの学校においても、先生方が、支援の必要な子どもたちに丁寧に向き合い、具体的な支援をし、保護者とは十分懇談し、校内では、教員同士で子どものことをわかりあえる温かい環境を作っただけだと思います。今までに実践され研修されたことを、大いに発揮されますようよろしくお願い致します。

平成29年度 専門性を高めるためのセンター主催の研修紹介

特別支援教育コーディネーター養成研修

初めて特別支援教育コーディネーターに指名された教職員や、園・校内でコーディネーター的な役割を担う教職員が、特別支援教育コーディネーターに必要な基礎的知識や技能を身につけることを目的に実施しています。

今年度は、幼稚園4名、小学校23名、中学校11名、高等学校12名、特別支援学校3名の計53名が研修を受講しました。当センターでの年3回の研修会（特支校は年5回）と所属校での研修が1回、当センターの研修講座を2講座受講していただいております。研修会では特別支援教育コーディネーターの実務について、講義や演習を通して学んだり、所属校の実践や現状について報告し合い、校内支援体制づくりについて考えを深めたりしました。また、受講者自らが、それぞれの所属校で、自校の課題に応じた研修を企画し、実施しました。

個別の指導計画作成の演習などを通して、具体的な内容を学ぶことができました。今後は研修で得たことを校内の先生方に伝達していきたいと思います。



研修を受けていくなかで、どの研修者もそれぞれの悩みを抱えていることが分かりました。研修会で、それぞれの悩みに対して適切なアドバイスをもらえたことにより、前向きに研修に取り組むことができました。

園内で研修を行ったことで、職員の意識が高まり、職員がひとつになって子どもの支援に向かおうとする雰囲気が増したと感じています。

アンケートより

特別支援教育コーディネーター専門研修・授業研究リーダー研修

特別支援教育コーディネーター専門研修は、特コ養成研修のステップアップとして、園や学校ぐるみで特別支援教育の体制づくりに取り組む研修であり、授業研究リーダー研修は、子どもが主体的に学ぶ授業や授業研究会の運営について考える研修です。両研修ともミドルリーダー研修として実施し、福大教職大学院と連携しているので、外部講師の助言や学校訪問を受けることができます。今年度は、特別支援教育コーディネーター専門研修は、小学校教員1名、特別支援学校教員2名、授業研究リーダー研修は、中学校教員1名、特別支援学校教員1名の計5名が受講しており、オブザーバーとして、特別支援学校教員が1名参加しました。校種を越えて、学校ぐるみの校内支援体制や授業研究会のあり方についての協議や所属校での実践を深めました。

それぞれが取り組んでいるテーマは違いますが、受講者の実践報告や、大学の先生や研修担当者からの助言を聞いたり、自分の報告について質問を受けたりすることで、実践に検討と工夫の余地があることに毎回気付かされ、良い刺激となっています。



どの発表も組織の中で、どのように人材を生かしていくかという課題が共通していました。その橋渡し役として先を見通し、仕組んでいくのが今の自分達の立場なのだ実感しました。

実践での自分の考えたことや思いを述べることで、改めて自分の考えを見直すことができました。テーマに沿ってしっかりと実践を振り返り、組織全体としてどうだったのかという点についても検討したいです。

アンケートより



新任特別支援学級担任教員研修

初めて特別支援学級担任になった教員が、特別支援学級の担任として必要とされる学級経営、学習指導、児童生徒理解等に関する基礎的事項について研修し、担任としての資質および指導力の向上を図ることを目的に、実施しています。

今年度は、小学校61名、中学校24名の計85名が研修を受講しました。当センターを会場にした4回の研修と県内の特別支援学級での授業体験実習の計5回の研修を実施しました。研修会では、講義や演習を通して特別支援教育の基礎を学んだり、特別支援学校のサポーターの先生方に助言をもらいながら、子どもに応じた授業づくりについて、考えを深めたりしました。

特別支援教育の知識を基本的なことから学ぶことができました。年間を通して、同じ立場の受講者と情報交換や意見交換できて、励みになりました。



授業体験実習では、実際に授業の様子や休み時間の様子、教室環境を見ることができたので、とても有意義な研修になりました。また研究協議会では、日頃の悩みに対してのアドバイスをもらえたことがとても役に立ちました。

第3研修や第4研修では、子どものことを考えながら、どんな教材でどんな授業をすればよいのか、特別支援学校の先生からも助言をもらうことができ、大変勉強になりました。

アンケートより

中間報告や最終報告などの提出レポートを冊子にいただけたので、他の学校の先生方の実践や支援方法を知ることができ、とても参考になりました。

平成30年度から高等学校における通級による指導が制度化されます！

福井県教育庁 高校教育課 特別支援・発達障害児教育グループ

全国的に中学校で通級による指導を受ける生徒数は年々増加しており、そのほとんどが高等学校に進学しています。これまで、高等学校では、特別の教育課程を編成して障害等により困難さのある生徒の指導・支援を行うことはありませんでした。

障害者の権利に関する条約で提唱された「インクルーシブ教育システム」の理念を踏まえ、小・中学校等からの学びの連続性を一層確保しつつ、高等学校においても生徒一人ひとりの教育的ニーズに即した適切な指導や必要な支援が提供されるよう、多様な学びの場の整備が求められるようになりました。

そこで、平成28年12月に学校教育法施行規則および文部科学省告示が改正され、平成30年度から高等学校においても通級による指導が制度化され、実施できるようになりました。

教育課程の位置づけにおいては、特別の指導を「加え」または「選択教科・科目の一部に替える」ことができますとともに、年間7単位を超えない範囲で卒業認定単位に含めることができます。ただし、高等学校の教育の共通性を確保する観点から必履修教科・科目等については代替できない点や、小・中学校等も含めて単なる学習内容の遅れを取り戻すための指導ではないことが明確化された点に留意する必要があります。

福井県では、平成30年度からの通級による指導の制度化にあわせて、通級指導担当教員の配置ならびに高等学校における特別支援教育の充実（障害により支援を必要とする生徒の実態把握、担任からの相談体制、「個別の指導計画」等の作成サポート、校内委員会での助言、教員研修など）を図っていきます。

導入段階では、コミュニケーションや社会性の面で困難さを抱える生徒を中心に、自己理解や状況に応じたコミュニケーションスキル、情緒の安定、集団参加など「自立活動」に相当する指導内容を、特別支援学校に配置された通級指導担当教員が巡回して指導する形態でスタートします。



大野市陽明中学校の通級指導教室の紹介

通級指導担当 櫻井 透先生

陽明中学校では、5名の生徒が通級による指導を利用しています。ここでは、2年生の生徒について紹介します。

本生徒が小学6年生のときに、私が通級による指導を週2回担当していました。中学校に入学して1学期までは、通常の学級ですべて授業を受けていました。しかし、数学の授業で一度に学んだいろいろな計算方法が、本人の混乱につながったようです。1年生の2学期から通級による指導を始め、計算問題を中心に学習を進めることで、少しずつではありますが、再び自信がもてるようになりました。

中学校では、どうしても高校入試が生徒たちにとっての大きな目標とも言え、通級による指導では教科補充を期待されることが多くなりがちです。しかし、本生徒は中学校生活の不安や日常生活について私に話をすることによって、自分自身で気持ちの安定を図っているようです。

このように通級による指導を通して、本人の自己肯定感の向上を図るとともに、生徒の不安を取り除くカウンセリング的な役割も果たしていると思います。



実践研究発表会 報告

平成30年2月7日（水）当センターにおいて、実践研究発表会を開催する予定でしたが、嶺北地区の記録的大雪の影響により、やむを得ず中止とさせていただきました。発表予定であった実践の概要を以下に掲載させていただきます。

卒業後の生活を見据えた支援

～関係機関の連携構築に果たした支援会議の役割と意義について～ 【福井県立南越特別支援学校】

生徒の安定した学校生活と卒業後の生活に向けて、保護者、学校、福祉等の専門機関が連携し、継続して支援会議を行った。その結果、関係者全員で情報や課題を共有でき、担任も支えられながら全員が当事者として話をすすめる協働関係を構築することができたチームの取組と、目的を明確にもつ支援会議の運用について報告。

安心して取り組むことができる授業や学習環境の工夫

【福井市六条小学校】

六条小学校は「学力の基礎・基本の定着をめざした、どの子もわかる・できる授業づくり」に組織的に取り組んでいる。今回はユニバーサルデザインの視点から安心して取り組むことができるための授業や学習環境の工夫について具体的な取組を紹介。

一人一人がのびのびと成長できる学級・学校をめざして～生徒も先生も気持ちよく過ごすためのちょっとしたコツ～

【大野市開成中学校】

特別支援学級担任、通常学級担任、学年主任、特別支援教育コーディネーターとして取り組んできた自身の経験から、一人一人がのびのびと成長できる学級・学校づくりの取組を報告。支援を要する生徒に活動の場を意図的につくる、周りの生徒がその生徒に適切な支援ができるように教師がモデルを示すなど具体的なポイントを紹介。

学校・地域・社会とつながる「サボわだ市役所」の取組（生活単元学習・自立活動）

【福井市和田小学校】

児童が意欲的、自主的に見通しをもって取り組み、自己決定、自己選択できるようにするために実態に応じた適切な課題や単元の設定を工夫した生活単元学習や自立活動の取組を報告。また、達成感、充実感が味わえるように年間指導計画を工夫し、学級だけにとどまらず、学校や地域・社会とのつながりを広げたキャリア教育の視点とも関連づけた点も報告。

子どもの姿を語り合う学校を目指して～支援体制システム構築を通して～

【福井市明新小学校】

自校の課題を踏まえ、校内全体で子どもの状況を把握し、子どもの姿を語り合える学校にしていきたいという思いから、管理職と特コが中心となって学校組織の改革を行い、「子ども支援部会」を立ち上げた。学校組織の変革を通して、教職員の当事者意識の向上と教職員全体がチームとなる支援体制の構築を目指した2年間の取組について報告。

教師がお互いのよさを認め、支え合うコミュニティの構築のために～特別支援教育センターが取り組む「学校支援」～

【特別支援教育センター】

単学級の小規模校において、担任同士がお互いを支え合って、子どもの支援を考えるために、特別支援教育コーディネーターが管理職と協働しながら校内でコミュニティづくりを行った過程についての取組を紹介。また、センターがどのように特別支援教育コーディネーターを後押ししたか、センターの役割についても報告。

教育支援専門員だより

今年度から3名の教育支援専門員が当センターを拠点に、小中学校を訪問し学校支援事業を行っています。この事業は3年計画で初年度は福井市、永平寺町の小中学校に訪問させていただきました。御協力いただきました管理職や関係の先生方ありがとうございました。

教育支援専門員は、よりよい特別支援教育体制を推進するため、「個別的教育支援計画・指導計画等の作成」や「学校の状況に合わせた校内支援体制の構築」「特別支援教育の資質向上のための学校支援」「学校間の移行支援の推進」等についてお話をさせていただきました。

来年度は、坂井市、あわら市、大野市、勝山市、鯖江市、越前町、池田町の小中学校を訪問いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

センターだより

すくらむ第89号



発行日 平成30年 3月 1日
発行所 福井県特別支援教育センター
所在地 〒910-0846 福井市四ツ井2丁目8-1
TEL (0776)53-6574
FAX (0776)52-6272
E-mail tokuse@pref.fukui.lg.jp
URL <http://www.fukuisec.ed.jp>